



建設大臣表彰伝達式には伊藤さん(前左)と伊藤さん(前右)が出席

会をつくったのは昭和五十六年のことです。年もとって一段落したことだし、何か社会に役立つことができればと思って、国道端のごみ拾いや冬場の歩道の除雪を始めたんです。

今、会員は五人で、平均年齢

何か役立つことを—

そう思うて

は六十四歳ぐらい。陣場の陣と友人の友をとって陣友会なんです。よく何の会だかって聞かれます。響きがちょっとあやしげに感じられるらしいんです(笑)。

ごみ拾いは月に二、三回、陣場の跨線橋から県境までの約四六・間をやっています。始めたころは一回に肥料袋で何十個にもなりました。空き缶や雑誌はもちろん、冷蔵庫まであったのにあきれてしまいました。近ごろはオムツなんかもあるんです。草むらとか側溝とか見えにくい所へ捨てられてますから、草刈りや清掃もするんです。きれいになってると捨てなくなるようですね。とは言っても今でも十個ほどはありますけれど。

除雪しているのは、陣場駅までの歩道約三百メートルです。まだ暗い午前四時半ごろからスノーダンプを押し始めます。陣場では

陣友会



18

今回ご紹介するのは、陣場の「陣友会」です。十年余りにわたって、陣場の中心部を走る国道7号沿いの清掃や、冬季の歩道除雪といったボランティア活動を続け、九月には建設大臣表彰を受賞しました。会の新沢清さんと塙勝次さんからお話を伺ってみました。

これからも 続けていきます

一晩に三〇センチぐらい積もることはよくありますし、国道の除雪で寄せられた雪が固くなってたりして結構大変なんですよ。

十年間も続けてきましたけど、「やめるが、ばがくせ」と考えたときもありました。口きかない人に「暇だもんだな」なんて言われたりもしてね。それでもやり通してきて、いろんな表彰されて、今回は建設大臣表彰。別に表彰されたくてやってきたんじゃないんですが、自分なりにここまでよくやってきたなあと感じています。

これからできることをやっていこうと思いますし、地域のために何かしようという人が増えてくれればいいですね。



横浜発 → 大館着

前略

大館市民になりました 19

▽今回は城西町の横山正行さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか？

四人です。子供は五歳と一歳でどちらも男の子です。

Q・どちらから転入されましたか？

横浜市から、今年の三月三十日に来ました。出身は私も妻も東京です。

Q・大館の第一印象はいかがでしたか？

観光地に隣接していますから、仕事でも遊びでもエンジョイできそうだなと思いました。

Q・言葉や食べ物などでとまどいはありませんか？

こちらへ来てから半年ほどになりますけれど、言葉はまだ全部は分かりませんね。地元の人たちの中に入って三つか四つボンボン言われるともうだめです(笑)。水とお米はおいしいですね。転勤で大館は五カ所目ですけど、横浜でも以前に稚内でも家庭用の浄水器を使ってたんです。大館ではいらないうえ、お米は毎日あきたこまちを食べます。少し太りましたよ(笑)。春には山菜もいろいろ食べましたし、これからはキノコも楽しみにしています。

Q・大館にどんなことを望みますか？

道路事情があまりよくないと思います。大きな道路でも修復されてない箇所がありますから、車を運転してて気を使いますね。

空港は早くできるといいですね。今年の夏は青森空港を利用して東京へ帰ったんですが、大館能代ができればずいぶん楽になります。



正行さんとしのぶさん、長男正裕くん(右)と二男の慎也ちゃんです。